



2019年3月7日

各 位

会社名 株式会社メドレックス  
代表者名 代表取締役社長 松村 米浩  
(コード番号：4586 東証マザーズ)  
問合せ先 経営管理部長 藤岡 健  
(TEL. 03-3664-9665)

### 米国癌学会年次総会における発表のお知らせ

2019年3月29日～4月3日に開催される米国癌学会年次総会2019 (AACR: American Association for Cancer Research, Annual Meeting 2019) において、東京医科歯科大学等と当社が共同で実施した研究成果「皮膚扁平上皮がんに対するmiR-634軟膏の経皮局所投与による治療可能性」が発表されることになりましたのでお知らせいたします。

#### ◇米国癌学会年次総会2019 (AACR Annual Meeting 2019) 開催概要

会期：2019年3月29日(金)～4月3日(水)

会場：Georgia World Congress Center, Atlanta, Georgia

URL：<https://www.aacr.org/Meetings/Pages/MeetingDetail.aspx?EventItemID=174>

#### ◇東京医科歯科大学等と当社との共同での発表演題

2019年4月1日 13:00-17:00

Session: P0.MCB10.03 miRNA-based Diagnostics and Therapeutics

Section 36 (Poster Session) 2586 / 10

Therapeutic potential of the topical treatment of *miR-634* ointment for cutaneous squamous cell carcinoma (CSCC) 「皮膚扁平上皮がんに対するmiR-634軟膏の経皮局所投与による治療可能性」

#### 【概要】

皮膚扁平上皮がん(CSCC)は非メラノーマの中で二番目の頻度で見られる皮膚がんである。現在のところ、CSCCに対する最も一般的な治療方法は外科的手術であるが、そのような治療を拒む患者、あるいは手術に耐えられない患者に対する代替治療として、低侵襲で効果的な治療が望まれている。

一方、マイクロRNA(miRs)は生体内に本来存在する非翻訳RNAとして知られており、標的となる転写RNAの安定性や翻訳効率に干渉することにより、遺伝子発現を負に調整している。このことから、複数のがん促進遺伝子を同時に標的とするがん抑制miRsは、がん治療薬として利用できる可能性が指摘されている。我々はすでに、miR-634の過剰発現により、オートファジー、抗酸化、抗アポトーシス、ミトコンドリアのホメオスタシスなどを含む、細胞保護プロセスにかかわる遺伝子群を直接標的にすることにより、様々な細胞でミトコンドリア由来のアポトーシス経路を活性化することを

見出している。

(その上で、今後の治療薬開発という観点からは) ドラッグデリバリーシステム(DDS)の開発がmiRを用いた治療において重要である。CSCCに対する局所的治療は、非外科的治療の新たなオプションとして考えられている中で、今回我々はマウスのCSCCモデルにおいて局所的なmiR-634含有軟膏による治療の有効性を明らかにした。すなわち、ヒトの類表皮ガン由来のA341細胞を用いたマウス腫瘍モデルでは、二重鎖 miR-634 mimicsを含む軟膏の局所投与によって腫瘍増殖が著しく減少した。さらに、発がん物質投与により誘導された皮膚乳頭腫モデルにおいても、miR-634含有軟膏の局所投与により腫瘍増殖が抑制された。これらの知見から、miR-634含有軟膏はCSCCに対する非侵襲的で効果的な治療となりうると考えられる。

以 上